

ミュージアム 通信

日本の夏、江戸の夏

[資料室談議 第9回]

『都風俗化粧伝』より抜粋・解説
美顔マッサージのススメ～
江戸の女性のアンチエイジング

[常設展示リニューアルのご案内]

紅の歴史と文化を
南青山から発信



「十二月ノ内 水無月 土用干」(部分)・豊国・国立国会図書館所蔵

日本の夏、江戸の夏

両国の花火が告げる
江戸の夏の開幕

鬱陶しい梅雨が明け、江戸に夏の盛りがやって来る。陰暦五月の二十八日、江戸市中に轟くは両国川開きの花火の音。この大音響が、江戸に本格的な夏が来たことを告げるのだ。

【六月一日―氷室御祝儀・富士詣】

陰暦六月―水無月(現在の七月)に入ると、江戸城中で氷室の御祝儀が行われる。将軍が臣下に氷を下賜するこれを真似て、町家でも寒水で製した餅を食べた。

また同日は、早朝より江戸市中に線香の煙が立ち上る。これは、富士の浅間大権現に奉るためのものである。天気が良ければ江戸市中からも見ることのできた霊峰富士は、当時の人々にとって重要な信仰対象だった。江戸には本物の富士に代わる

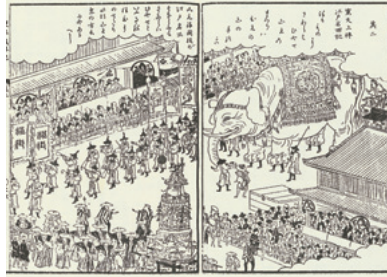
人工の富士(岩や土で小山を築き、富士塚と称した)がいくつも造られた。なかでも特に有名だったのが駒込や浅草砂利場の人工富士で、人々は本物の富士の山開きが行われる一日に合わせ、江戸の富士を参拝した。

参拝時、人々は必ず土産に麦藁細工の蛇を買い求めた。これには疫病・災厄除けの効験があるとされ、台所や井戸に置けば、虫がわかないとも言われたそうだ。

【六月五日・夏祭】

江戸の夏は、祭の夏でもある。五日から八日にかけて行われる神田明神天王祭二の宮を皮切りに、牛頭天王祭・山王祭・赤坂氷川明神祭礼・佃島住吉明神祭礼など、晦日までほぼ連日祭が行われた。まさに祭漬けの夏である。とりわけ十五日の山王祭は「天下祭」の名でも知られ、炎暑の最中、その名に

恥じない熱狂ぶりを見せた。人々は数多の山車や練り物に歓呼し、それらは江戸城内にも入り、將軍の上覧を受けた。当祭名物のひとつ「朝鮮人來朝の練り物」には、大きな象の模型が出され、大変な評判を呼んだ。



『東都歳時記』日吉山王権現社御祭礼

【六月中旬頃・土用の虫干し】

春夏秋冬、各季の終わりの約十八日間を土用という。夏の土用は丑の日に鰻を食す習慣からよく知られているが、この風習は江戸時代になってから始まったものである。雨も降らず、酷暑の続

くこの時期、家々では女たちが衣類や書物などを日に曝し、風を通す「虫干し」が行われた。座敷の奥から縁の端まで、紐や縄を張り渡し、時には屋根にまで衣類を広げた。忙しく働く女の傍ら、亭主の存在は邪魔にしかならなかったようで、「一日は夫の暇な土用干し」などという川柳が詠まれた。さながら現代の「休日のお父さん」が如く。



「十二月ノ内 水無月 土用干」・豊国・国立国会図書館所蔵

【六月二十日以降・蓮見物と大川の水垢離】

東都一の蓮の名所・不忍池では、例年小暑の頃になると蓮の開花が始まる。蓮の花弁が開き始める未明、その様を一目見ようと風流人たちがこの地を訪れたという。

一方、両国橋の東詰めの垢離場には、この時期、大山参り(現神奈川県・大山阿夫利神社)に出発するために水垢離(みずごり)をし、身を清める者たちの姿があった。富士山同様、大山も江戸の人々の信仰を集めた霊山であった。

お江戸納涼スタイル

エアコンのなかった江戸時代、人々は涼を求めて川筋へ赴いた。江戸随一の涼み所であった隅田川両岸は、五月末の川開き以降八月下旬まで、涼を求める人で賑わった。両岸には料理茶屋が軒を連ね、店先に吊るされた

絵燈籠や提灯の灯りがさぞ川面に映えたことだろう。川面に浮かぶ屋形船からは三味線や鼓笛の音が届き、そこに冷水売りや水菓子売りなどの物売りの声も加わって、人々の涼しさを誘った。

花火の夜は、大小様々な船が入り混じり、両国橋には溢れんばかりの人が押し寄せた。江戸随一の涼み所も、夜空に咲く大輪の前に熱気と興奮に包まれたに違いない。



「新撰江戸名所 両国納涼花火之図」・広重・国立国会図書館所蔵

※『東都歳時記』には、このほかの人工富士の所在地として、深川八幡宮境内・柳原柳森稲荷、鉄炮洲稲荷、茅場町天満宮・池之端七軒町、神田明神社などが見える。

『都風俗化粧伝』より抜粋・解説
 みやこふうぞくけわいでん
 美顔マッサージのススメ
 江戸の女性のアンチエイジング



『都風俗化粧伝』上巻・顔面の部
 「色を白くし顔の光沢を出だし皺をのし一生年寄りて見えざる手術の伝」

「お肌の曲がり角」などという、女性からすれば遠慮願いたいこと甚だしい言葉がある。

老化は避けられない現象だとしても、少しでも若くありたい・見られたいという女性の願望は、今昔を問わなす。

そこで今回は、表題にあるように、江戸の女性のアンチエイジングー美顔マッサージについて見ていくとしよう。

以下、本書「顔面の部」より該当部の一部を抜粋して載せる（読み易いよう読点を振り、一部漢字変換済み）。

「まず両手の掌（ひら）を合わせ、数十遍すり、掌を合わせ、手の掌（うち）おのずから熱出でてあつくなりたる時、手の掌にて額をよくよく撫でこすり、それより鼻の両脇、また頬、口の辺り、その形の高さ

低きに従い、幾十度もよく撫でずり、そののち両目の目蓋を撫で、耳の両脇より耳をよくよく撫ずるなり（後略）」

では、内容について詳しく見ていこう。

まず、マッサージを行う前の準備として、両手の平をよく擦り合わせ、温める。手の平が十分に温まつたら、額から撫で解し、鼻の両脇・頬・口周辺の順でマッサージをする。この時、「その形の高さ低きに従い」とあるのは、おそらく顔の中心部（高い部分）から顔の側面部（低い部分）に向かって撫でていくという意味だろう。目の周辺・目蓋を撫で終えたら、最後に耳の両脇



最近になり、国語辞典にも掲載されるようになった「アンチエイジング」という言葉。抗老化、若返りといった意味で、ここ数年の繁用振りを見れば今更と思う人もいることだろう。事実、今更なのである。すでに江戸時代にあったアンチエイジング対策を今回は紹介する。

を撫でて終了である。

さて、思わず感心してしまふのは、右の手順が、結果的にリンパの流れを意識したそれになっていくという点である。「高さ低きに従い」はもとより、最後に耳の両脇を撫でるといふのは、まさにリンパを刺激して、老廃物を流すという、現代のマッサージに酷似している。果たして江戸時代に、リンパ線に対する正しい認識があったかと言えば否であるが、少なくともこのマッサージを毎日怠らさずに行えば、顔のハリ・ツヤが良くなることはもちろん、シワも消え、「少女のごとく」になるだろう。

是非お試しあれ。

二〇〇九年四月十日にリニューアルオープン

紅の歴史と文化を南青山から発信

このほどリニューアルした当館資料室・常設展示をご紹介します。

伊勢半本店 紅ミュージアムは、二〇〇九年四月十日より資料室を全面リニューアルし、新たなスタートを切りました。

今回のリニューアルは、紅に特化した日本唯一のミュージアムとして、その歴史と文化をより深くお伝えするために敢行。資料と情報を追加し、構成も再編成いたしました。

まずは導入部として、紅の起源伝来に始まり、全国的な普及、そして産業としての発展を概観。続いて山形県に伝わる紅餅作りや江戸時代から続く伝統的な紅の製法、紅屋のマーケティングを、実物資料とともにわかりやすく紹介いたします。かねてより人気のあった江戸時代の化粧に関する



展示は、資料を追加してより当時の女性たちの化粧習慣が窺えるように改良いたしました。紅、白粉、眉墨、お歯黒など基本の化粧道具をはじめ、携帯用紅入れの板紅、化粧道具一式を納めた定家文庫など各種ご覧いただけます。一度ご来観いただいた方にもお楽しみいただける内容です。ぜひ、お近くにお越しの際はお待ち寄りください。



今後の活動に関しましては、当館ホームページにて随時ご紹介いたします。今秋には「江戸の赤」をテーマに企画展を開催予定。また、日本で育まれた文化や美意識に触れる、講座やイベント等も実施して参ります。今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

Information

かわら版

小町紅ギフトセットを6月16日より発売

人気の小町紅「季あろ」に、金箔の手鏡とイタチ毛の紅筆を付けたギフトセットです。古より人生儀礼を彩った「紅」と、富や長寿の象徴「金」を合わせた本品は、ご年配の方へのお中元や還暦のお祝いにもおすすめです。お求めは、当館もしくは電話通販にて承ります。電話通販：03-5774-0296



小町紅
ギフトセット
¥16,275(税込)

講座のご案内

■「第6回江戸化粧講座」

江戸時代の女性たちは、紅の赤、白粉の白、お歯黒・眉墨の黒、このわずか三色で粧いました。本講座では、当時の化粧書や美容指南書をもとに研究した内容を化粧デモンストレーションとともに発表いたします。解説は学芸員が行います。要予約・定員各回15名・参加費無料

2009年7月11日(土) 第1回 午後2時~3時 / 第2回 午後4時~5時

※内容・申込詳細は、ホームページに掲載いたします。

Since 1825

伊勢半本店 紅ミュージアムのご案内

●開館時間 / 午前11時~午後7時 ●休館日 / 毎週月曜日 ●入場無料
(月曜日が祝日または振替休日の場合は、翌日が休館日となります)

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F TEL&FAX:03-5467-3735
東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」下車B1出口より徒歩12分

<http://www.isehan.co.jp>